

YATOかわら版

500年の
COMMONを
考える



YATO

第6号 2021年9月

発行

YATOプロジェクト事務局

東京都町田市忠生2-5-3

<https://yato500.net>

忠生のはなし

谷戸と稲作

話を聞いた人・杉山弘さん(田んぼのおじさん)

築田寺がある場所のように、三方を山に囲まれた谷のことを「谷戸」といいます。こんなことと水が湧く谷戸は、水道や水路がなかった時代、水が必要不可欠な稲作にとって、大切な場所でした。ぼくも今、町田市小野路町大犬久保谷戸という、谷戸にある田んぼでお米をつくっています。

田んぼの近くは水がたくさん湧くのですが、谷戸の湧水は、お米をつくるには少し冷たすぎるんです。だから、「ため池」と

いって、水をためる場所をつくって、そこで水の温度をぬるくしてから、田んぼに流れるようにしています。

それから、谷戸は山の谷合いにあるので、まわりに木が茂っていて日当たりがよくありません。でも、稲を育てるには、十分な太陽の光が必要ですね。そこで、昔の人は、近くの木を伐採して、背丈の低いイネ科の植物である「茅」を育てて、谷戸の田んぼに太陽の光があたるようにしていたそうです。また、そのような場所を「茅場」といい、「茅葺き屋根」をつくるための茅を、確保しておく場所でもあったそうです。そうやって、昔の人は、ため池をつくって水をぬるくしたり、茅場をつくって日当たりをよくしたり、工夫をしながら、谷戸でお米をつくっていたんですね。こんな風に、

谷戸という地形は、昔から稲作と大きな関わりがある場所なんです。

「YATO」プロジェクトは、谷戸の地形から「谷戸」とよばれる、忠生周辺地域のことを学び、500年先に生きる人たちにどう伝えていくかを考えるプロジェクトです。



谷戸の田んぼ

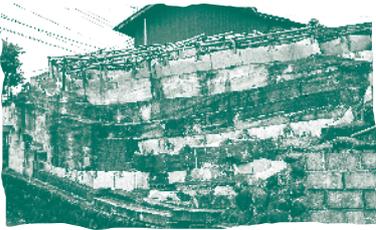
わさめふうろう

しゃしんぶん はたのしゅうへい
写真・文：波田野州平

壁をつくる

ホームセンター
に行く、「DIY」
というコーナーが
あります。これは
「Do it Yourself」
を略したもので、
「自分でやろう」と
いう意味です。「こ

こに壁がほしいなあ、じゃあ自分でつ
くってみよう！」と、誰かに任せるの
ではなく、情熱と材料を寄せ集めてつ
くられた、自分だけの壁がありました。



プロジェクトレポート Y・A・T・O 日記

8月5日、昭和薬科大学の薬用植物
園の先生たちと一緒に、築田寺に育つ
草や花を観察しました。小さなものが
大きく見える「顕微鏡」を使って植物
を見てみると、目では見えない世界が
広がっていました！ここで感じたこ
とを影絵制作に取り入れていきます。



人間の
血管みたい！

キラキラ
してる！

ほぞりのバナナみかい
減りボウンのおぼろ
1月の1科1本にやみかい
のがついこぎ。



やとつ子同盟

ただお・町田周辺で活動する、小学生
チーム「やとつ子同盟」。アーティス
トや年長者といろんなものをつくりな
がら、忠生の歴史や文化に触れる、遊
びと学びの場です。

影絵ワークショップの他にも、粘土
で打楽器をつくるワークショップなど
も行っていきます。みんなで作った影
絵の上演や、楽器の演奏の映像は、後
日HPに公開するから、楽しみにして
いてね！

